原の辻遺跡調査事務所調査報告書　第10集

鶴田遺跡

（つるた）

幡鉾川流域総合整備計画に係る池田川改修工事に伴う
緊急発掘調査報告書

1998

長崎県教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書　第10集

鶴田遺跡

（つるた）

幡鉾川流域総合整備計画に係る池田川改修工事に伴う
緊急発掘調査報告書

発刊にあたって

本書は，幡鉾川流域総合整備計画に係る池田川改修工事に先立って実施された，鶴田遺跡の発掘調査報告書です。鶴田遺跡は，原の辻遺跡に隣接した旧石器時代から中世にかけての遺跡で，弥生時代の大規模環濠集落である原の辻遺跡の大きな影響下にあったと考えられます。

今回の発掘調査では，旧石器時代の遺物が出土しました。これまでにも原の辻遺跡や興触遺跡などから同時代の石器が出土しており，壱岐島においても古くから人々が住んでいたことが解ってきました。このあたりからは，ナウマンゾウの骨格の一部も確認され，旧石器の出土とともに興味深いことといえます。

また，隣接した圃場整備に係る調査区からは，弥生時代中期の小児用かめ棺が相次いで発見され，この付近に集落が営まれていたことが明らかになりました。

現在，壱岐では「一支國」の王都と特定された原の辻遺跡が全国的に注目を集めていますが，島内にはこのほかにも古墳や古代の多くの貴重な遺跡があり，調査が進められています。

今後は，これらの遺跡にも光をあてながら保存活用を図っていくことも大切なことではないかと思われます。

本書が学術研究および郷土史研究の面で活用されることを念願して刊行のあいさつといたします。

平成10年３月31日

長崎県教育委員会教育長　　中　川　　忠

例　　言

1．本書は長崎県壱岐郡石田町池田仲触に所在する鶴田遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は，幡鉾川流域総合整備計画にかかる池田川河川改修工事に伴って，壱岐支庁建設課が事業主体となり，調査は県教育委員会が実施した。

3．調査面積は172.8㎡で，平成９年５月30日～７月４日までの日程で実施した。

4．本書関係の出土遺物と図面及び写真類は，現在原の辻遺跡調査事務所に保管されている。

5．本書の執筆と編集は，安楽が担当した。

本 文 目 次

1．調査の経緯……1
2．調　　査……1
(1)　調査概要……1
(2)　土　　層……3
3．遺　　物……3
4．ま と め……6

挿 図 目 次

第1図　調査区域図……1
第2図　鶴田遺跡位置図……2
第3図　土層実測図……3
第4図　遺物実測図(1)……4
第5図　遺物実測図(2)……5

図 版 目 次

図版1　調査区近景および調査風景……9
図版2　調査区土層……10
図版3　遺物出土状況……11
図版4　出土石器(1)……12
図版5　出土石器(2)……13
図版6　調査区全景……14

1．調査の経緯

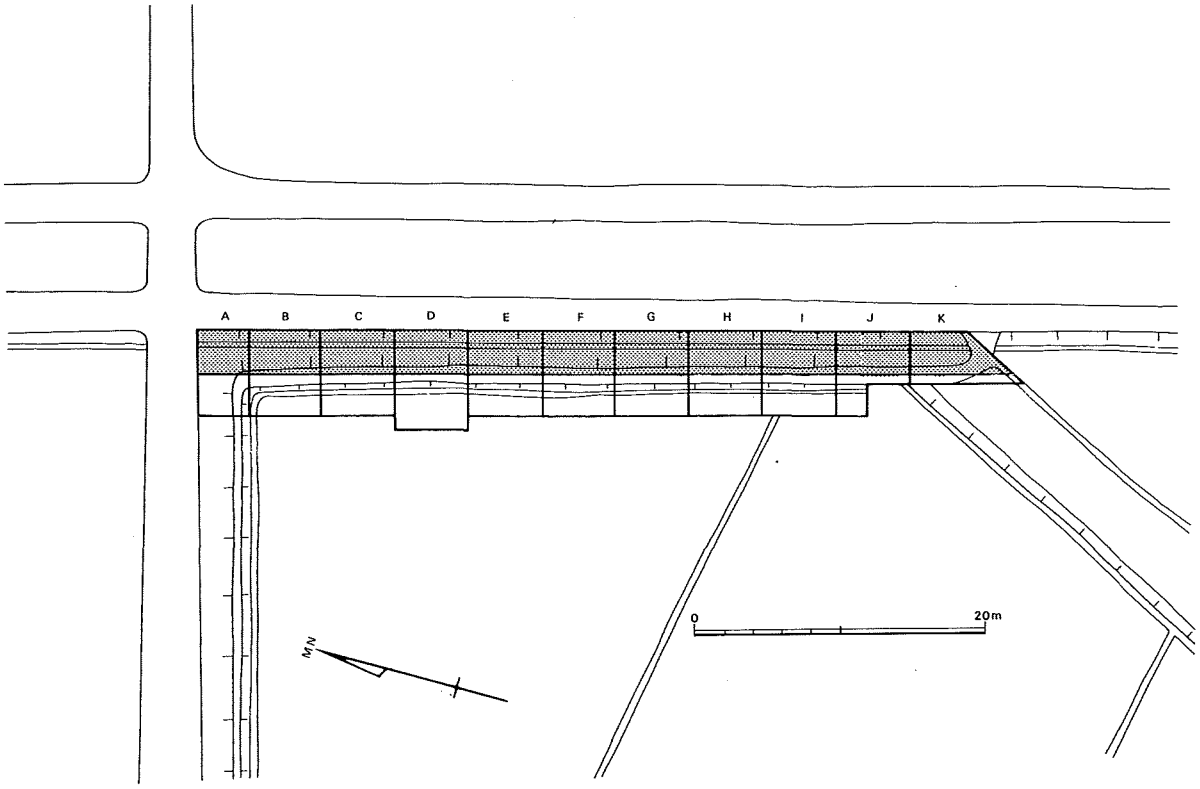
鶴田遺跡は，原の辻遺跡の丘陵部分から西側300mに位置する弥生時代の遺跡で，昭和10年代基盤整備等によって墓地が確認されていた。壱岐地区では，幡鉾川流域総合整備計画が立案され，それに先立って平成３年度，石田町教育委員会が主体となり遺跡の範囲確認調査が実施された。その結果に基づき，池田川改修にかかる区域の本調査を実施することになった。

2．調　　査

(1) 調査概要

調査は工事区域に従って，南北５ｍ×3.5mを基本とする調査区を北からＡ～Ｋまで設定した。なお，西側部分については圃場整備関係として調査が実施された。

調査区の東側は削られ，池田川は南北に直線的に改修されて原の辻遺跡と境を接しているが，今回の計画で池田川はさらに西側に広く改修されることになった訳である。



第１図　調査区域図

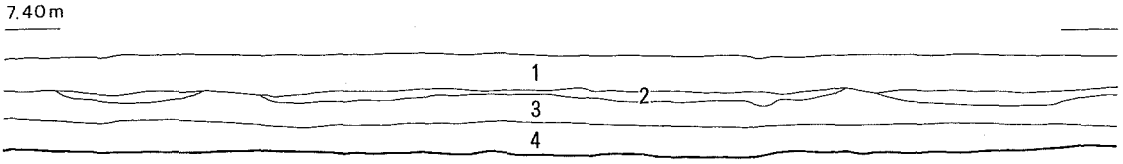
第 2 図　鶴田遺跡位置図

調査の結果，ほぼ全域から弥生時代中期の土器が出土した。これらはほとんどが細かい破片で，東側の圃場整備分で確認された甕棺墓が削平された際のものと考えられる。

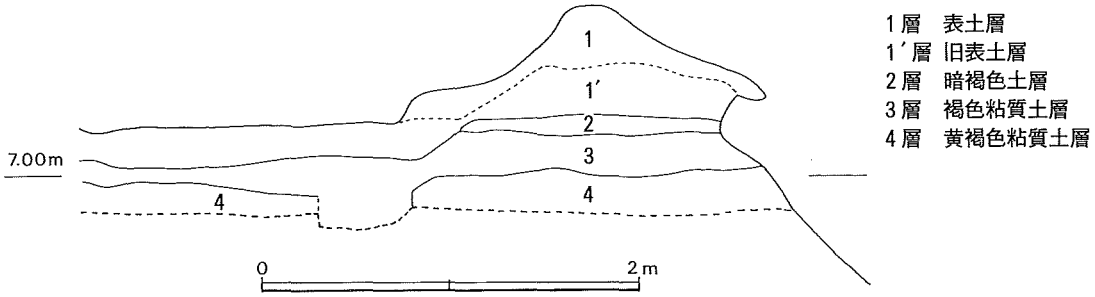
弥生土器片が出土する下層からは，旧石器時代の石器がまとまって出土した。

(2) 土　　層

土層は次の５層に大別される。第１層は表土で水田の作り土である。第２層は本来黒褐色の弥生時代の遺物包含層であるが，削平により一部でしか確認されていない。このため調査区の平坦地では黒褐色の攪乱層が，谷状の場所では茶褐色の客土が第２層として観察された。第３層はやや赤味をおびた淡黄褐色土層で旧石器時代の遺物が出土した。第４層は黄褐色で土層は第３層に似るが，遺物は出土しない。第５層は基盤層である。



１層 表土　２層 茶褐色土層　３層 黄褐色土層（旧石器文化層）　４層 基盤層

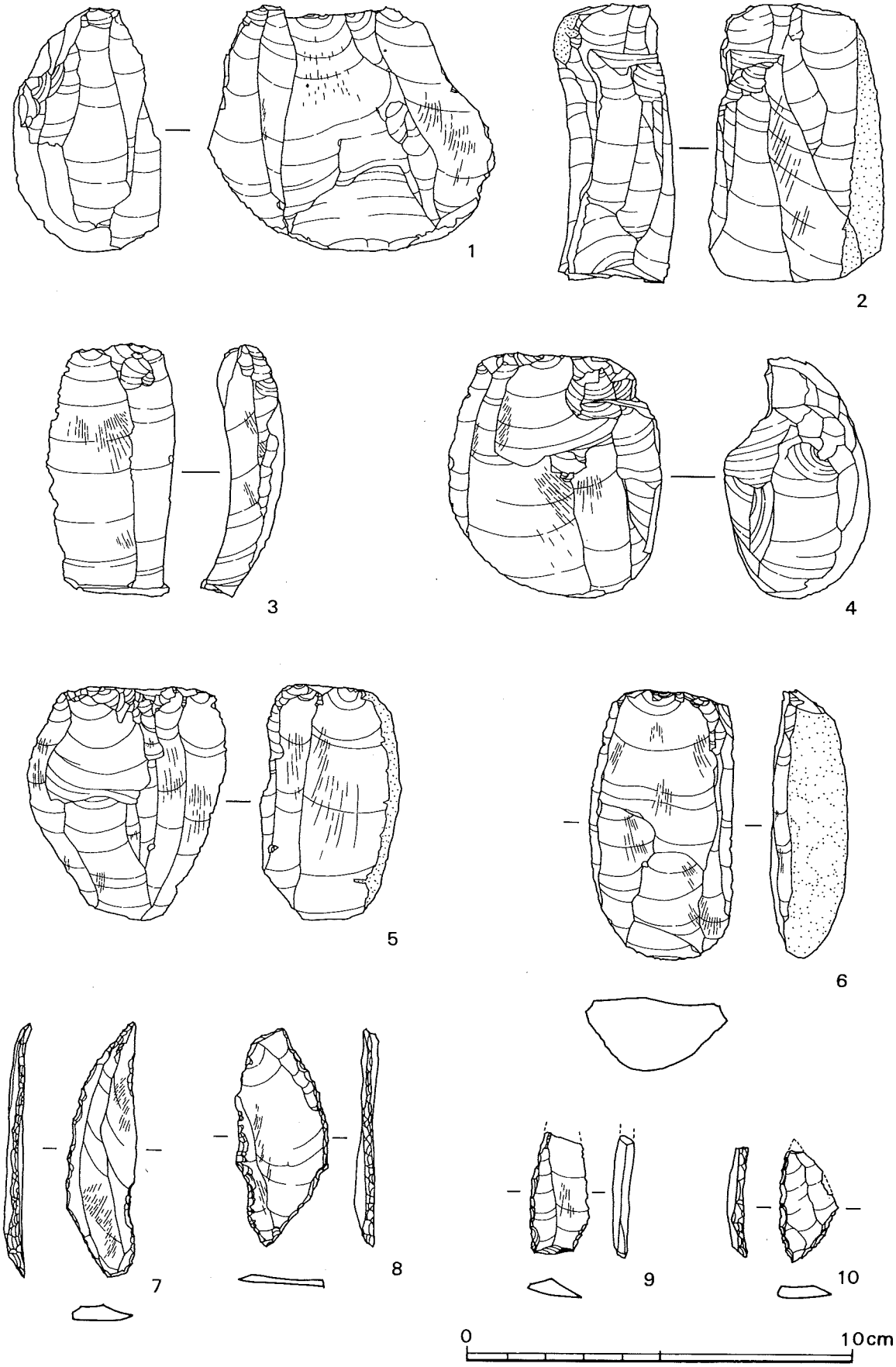


第３図　土層実測図

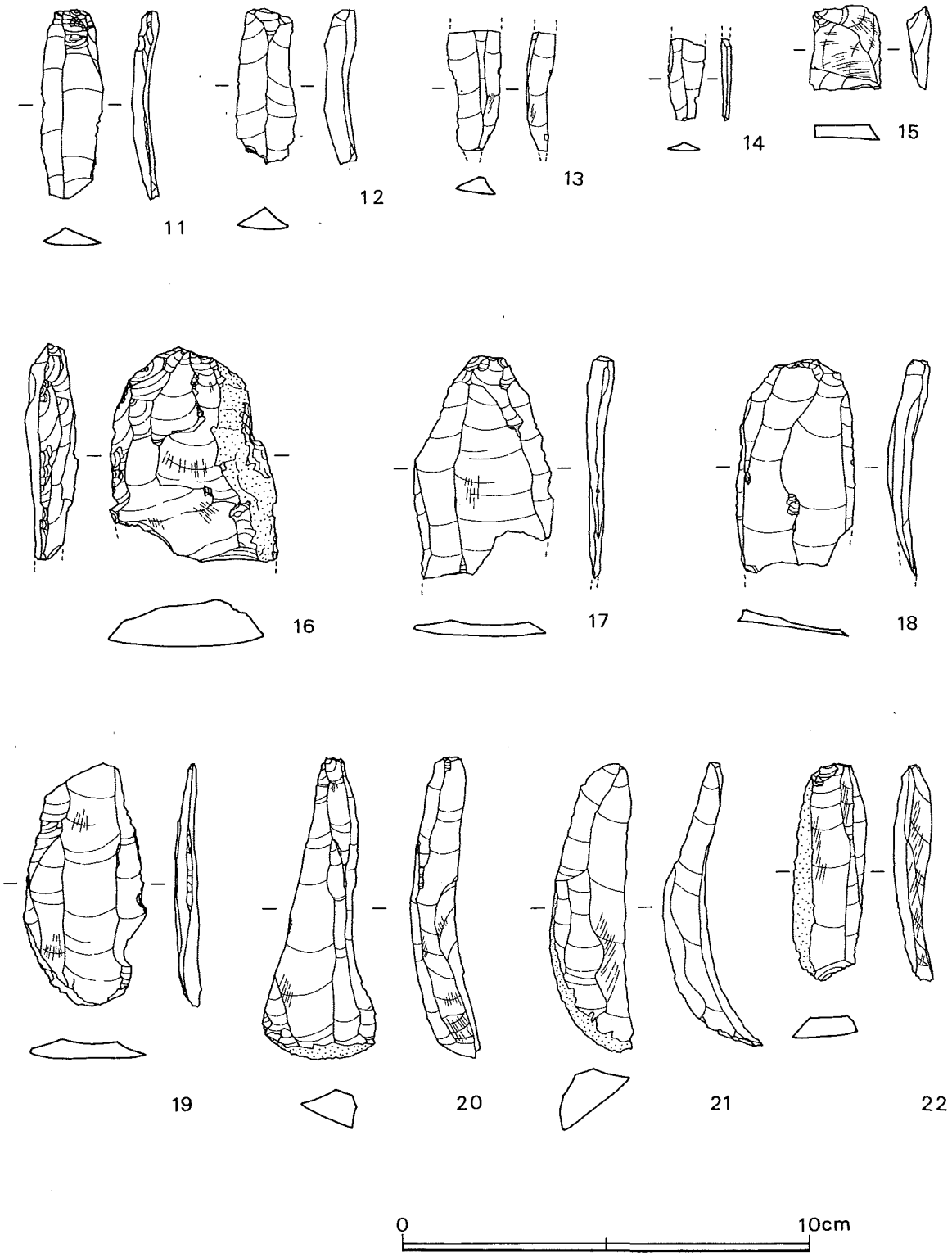
３．遺　　物

遺物は弥生時代の墓地が西側に広がっているが，本調査区では甕棺の小破片がわずかに出土しただけであった。一番まとまりを見せたのが，旧石器時代の石器である。Ｅ・Ｆ区２箇所のユニットが見られ，Ｄ区まで拡がり全体で150点ほど出土している。出土状況は石核を中心にフレーク類が多数を占め，ナイフ形石器も少量ながら出土している。なお材質は良質の漆黒の黒曜石で円礫を主体とした佐賀県磯道遺跡の石核により近い，いわゆる磯道技法類似点が指摘される石器群である。

１は楕円形の円礫の一端を半割し，片面に自然面を残す。上面に打面調整を加えながら縦長剥片を剥離している。剥片の１点は接合している。２は３つの剥離面が合った接合資料でその一端に自然面を残す方柱状に近い形のフレークで２～４回の剥離痕を残す。剥離は上下剥離を行うことにより石核



第４図　遺物実測図(1)



第 5 図　遺物実測図(2)

自体の歪みを少なくしている。3は2枚の剝片の接合状態である。剝片はやや湾曲するが，薄身の良好な剝片で円礫の石核から剝離されている。4は1と同様半球形の原礫を素材とする。打面はやや急傾面で自然面を背部に残す。5・6についても背部が自然面をもって湾曲するもので，全面に集中的に剝離を行っている。1・2・3・4・5・6の石核は剝片剝離の一連の行程の段を示しているようである。1→4→5→6の順を想定できよう。

ナイフ形石器は非常に薄身の剝片を素材としており，7については一側辺にプランティングを加え，一側辺は素材のエッヂをそのまま刃部として利用している。基部にはわずかに自然面を残す。8も薄身の素材を使用しており半透明である。7と同様に一側面を半円状にプランティングすることで共通する。17～19の薄身の剝片などがこれらのナイフ形石器の素材として使用されたものであろう。20～22の剝片は，先の石核の側片を調整した際の剝片と思われ，底部に自然面を残しやや湾曲する。また断面に厚みをもつことも特徴で，この手の石核の剝片剝離技法の一端を示す資料である。剝片のなかで特徴的なものとして11の剝片があげられる。表面剝離痕が下方向から，主要剝離面は上から剝離しており，両設打面の石核から剝離された可能性が高い。一側辺には使用痕が認められる。この石核などは両設打面石核であり，単設打面石核と両設打面石核が共存すると思われる。

4．まとめ

今回の出土資料は良質の黒曜石を使用し，拳大からやや小さめの円礫を素材としている。現在島内には数箇所の黒曜石原産地が確認されているが，これ程良質なものはなく，恐らく松浦市周辺から持ち込まれたのではないかと考えられる。

またこれらの石器群は，その出土状況からも極めて一期間に限定されるものと考えられ単一の石器群と認定できる資料で磯道技法として捉えられる一群である。現在島内では5箇所の遺跡で旧石器時代の遺物が発見されているが，はっきりした層位で捉えられたのは原の辻遺跡だけである。鶴田遺跡は原の辻遺跡の出土地点と約400～500m離れて位置している。これまで出土している原の辻型台形石器の一群とはあきらかに先後関係を捉えられる一群であり，萩原編年によるところのナイフ形石器文化前期に位置づけられるものと考える。

註

(1) 萩原博文　1995　「平戸の旧石器時代」『平戸市史』平戸市史編さん委員会

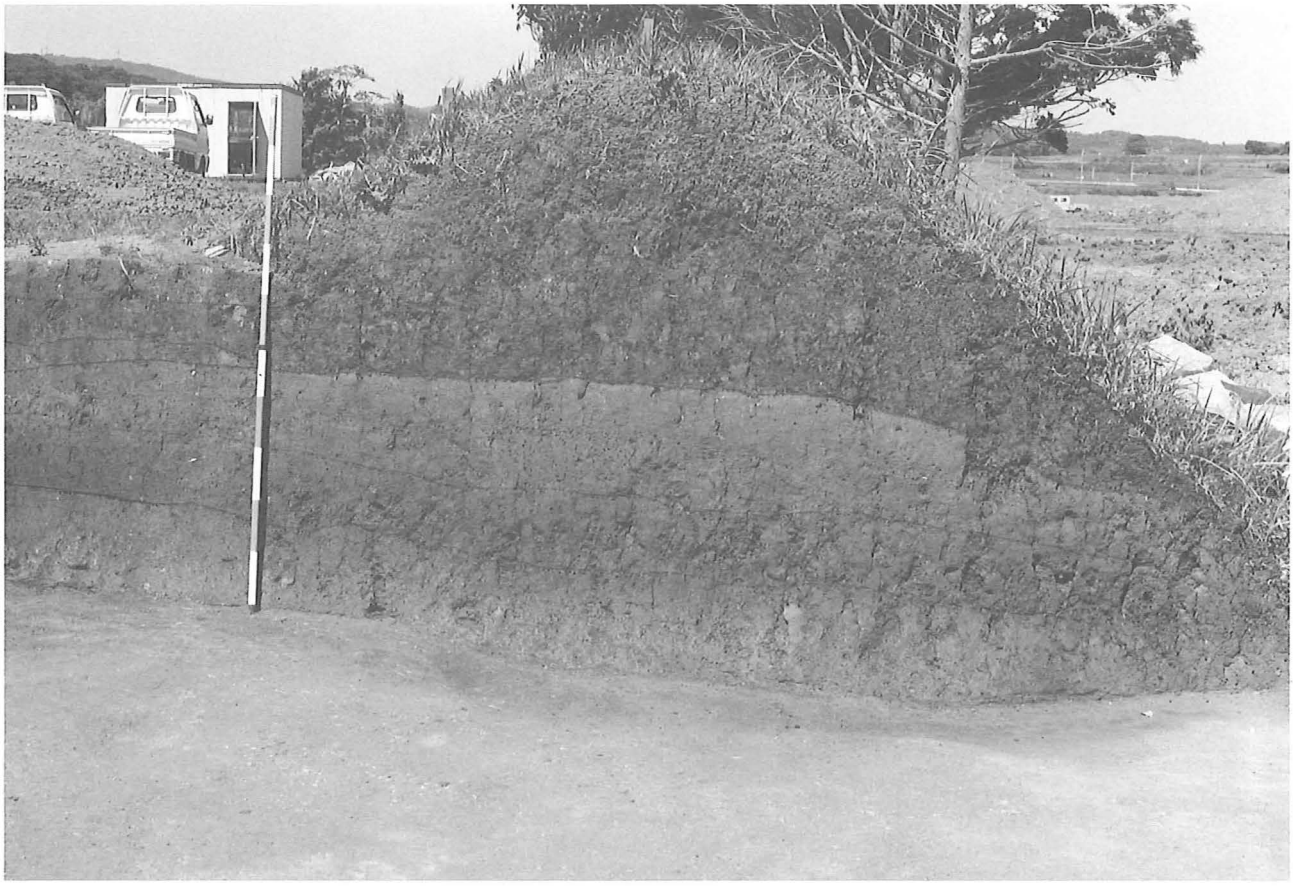
(2) 堀川義英　1981　『磯道遺跡』田尾遺跡群　肥前町文化財調査報告書第1集

遺物の特徴については県文化課埋蔵文化財班の福田一志氏の御教示を得た。

図　　版

調査区近景および調査風景

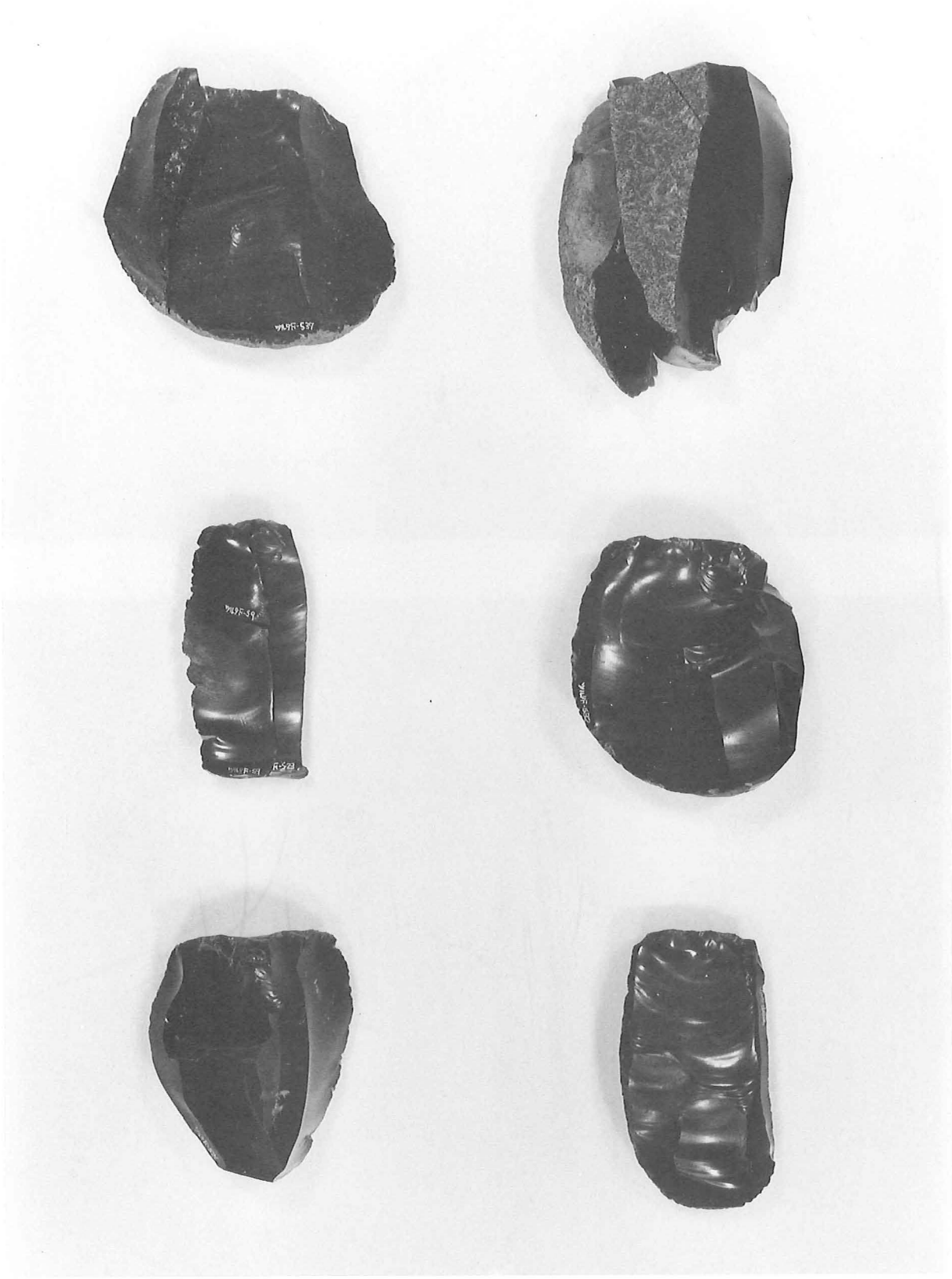
図版 2



調査区土層

遺物出土状況

図版 4



出土石器(1)

出土石器(2)

図版 6

調査区全景

報告書抄録

ふりがな	つるたいせき
書名	鶴田遺跡
副書名	幡鉾川流域総合整備計画に係る池田川改修工事に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	原の辻遺跡調査事務所調査報告書
シリーズ番号	第10集
編著者名	安楽　勉
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850—0861　長崎県長崎市江戸町2番13号　TEL095（826）5010
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
鶴田遺跡（つるた）	長崎県壱岐郡（ながさきけんいきぐん） 石田町池田仲触（いしだちょういけだなかふれ）	42424	5	33°45′18″	129°44′56″	19980530 ～ 19980704	172.8m²	河川改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶴田遺跡	散布地	旧石器時代		旧石器接合資料	

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第10集

鶴　田　遺　跡

1998．3．31

発行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2番13号

印刷　株式会社　昭和堂印刷